

- 新規就農者確保のために、**関係機関や農業士と連携**し、就農候補者の早期把握と就農意欲喚起に向けた取り組みが必要。また、新規就農者育成に関しては、農業経営安定のためのフォローアップが必要。
- 農業後継者が減少する中、**後継者同士の連携を深めると共に、経営能力の向上**を目指すために**4H活動等への支援**が重要。
- 農業士や関係機関等と連携した結果、**新規自営就農者36名、新規雇用就業者22名(12月末時点)を確保**。

具体的な成果

普及指導員の活動

1 新規自営就農者の確保

- 関係機関や農業士等と連携を図り、**新規自営就農者36名**を確保。このうち11名は技術習得支援研修等の研修修了生。
- 1) 就農ルート別新規就農者数
 - ①新規学卒就農者(農大・農高等) 2名
 - ②Uターン就農者(農家出身者) 28名
 - ③新規参入者(Iターン・非農家) 6名
- 2) 品目別新規就農者数(うち50歳未満)
 - ①露地野菜 4(3)名
 - ②施設野菜 10(10)名
 - ③果樹類 4(4)名
 - ④花き花木 4(4)名
 - ⑤肉用牛 10(10)名
 - ⑥その他 4(1)名

2 新規雇用就業者の確保

- 生産者へ農の雇用事業の活用等を助言した結果、**新規雇用就業者は22名**(R元。12月末現在)を確保。
- 雇用型農業を目指す**生産者と雇用就農を希望する農大生とのマッチング**等を農大と連携して実施した結果、次年度農大生2名が就職見込み。

3 4Hクラブ会員の確保・育成

- 各4Hクラブによる新規会員勧誘を支援し、**新規会員2名**を確保。農大2年生と各4Hクラブとの交流を仕組み、農大生2名が次年度加入の意思を表明。
- 平戸4Hがプロジェクト発表の部にて、特別賞を受賞。

通年

- 県北農業士会の活動**で、新規就農者の情報提供を呼び掛ける**チラシ**を配布。
- 関係機関との連携会議**(県北地域就農支援センター会議やJA営農技術者会等)や農業士等の生産者から提供された**新規就農候補者リスト**を作成。連携会議では情報の精査や更新も実施。



6月および9～10月

- 農家等派遣研修等**を活用し、雇用就農希望の農大生と雇用型農業を目指す生産者を**マッチング**。

10月および2月

- 農家等派遣研修(集合研修)**や**ナガサキ・アグリネット・フォーラム**を活用し、**親元就農予定の農大生**と4Hクラブ会員との交流を支援。



集合研修で講師を務める4H会員

普及指導員だからできたこと

- ・日頃から連携している生産者やJA、市町等の関係者を結びつけ、新規就農者等の確保・育成および新規4H会員の確保ができた。